

私の仕事スタイルはこうしてできた

この10年で、延べ5誌の編集長を務めてきた「ヴァンサンカン」編集長の十河ひろ美さん。さまざまなファッション誌を経験するなかで、十河さんが得てきた仕事術に迫る。

執筆からスタイリングまで経験！ 『ヴァンサンカン』編集部員時代

入社してから「エムシーシスター」に移るまでの9年間に、編集者としての仕事だけでなく、原稿執筆からスタイリストのアシスタントまでをこなした十河さん。編集にかかわるスタッフの立場や仕事を学んだ。

編集長修行の2年間 『エムシーシスター』編集長時代

1995年、編集長に抜擢された「エムシーシスター」は、10代の女子中高生がターゲット。「ヴァンサンカン」とは全く世界観の違う雑誌に戸惑いながらも、雑誌を研究して企画を出し、編集長としての基礎を身につけていった。

寝てもさめても“企画”の毎日 『ヴァンサンカン』編集長時代（第一期）

1997年に「ヴァンサンカン」の編集長に就任した十河さん。これまで築いてきたラグジュアリー誌の伝統を継承しながらも、誌面にユーモアのある部分や読者を驚かせる仕掛けを創出。寝ても覚めても企画のことばかり考えている毎日だった。

25ans （ヴァンサンカン）

アシェット婦人画報社
毎月28日発売

20代後半～30代前半の女性に向けた、新刊26年目のラグジュアリー・マガジン。



アシェット婦人画報社
「25ans（ヴァンサンカン）」編集長

十河 ひろ美さん

1986年、婦人画報社（現在のアシェット婦人画報社）に入社し、「ヴァンサンカン」の編集に携わる。1995年に「エムシーシスター」編集長。1997年には「ヴァンサンカン」編集長を歴任。1999年、日経コンテナスト社（現在のコンテナスト・パブリケーションズ・ジャパン）に移籍し、「ヴォーグ ニッポン」新刊編集長に。その後、2001年に世界文化社「MISS」編集長に就任。2006年9月には、アシェット婦人画報社に復帰し、同年11月より「ヴァンサンカン」の編集長に再登壇。

変化はチャンス！ 前向きに受け入れる

「ヴァンサンカン」「エムシーシスター」（アシェット婦人画報社）、「ヴォーグ ニッポン」（コンテナスト・パブリケーションズ・ジャパン）、「MISS」（世界文化社）と、数々のファッション誌の編集長を歴任してきた、現「ヴァンサンカン」編集長の十河ひろ美さん。

環境を変えることはエネルギーが必要であり、時にはストレスにつながるもの。しかし、十河さんは変化を前向きに受け入れ、どんな職場でも一生懸命仕事をしてきた。

「私の身上は、ポジティブに仕事をすること。変化を楽しみ、新しい経験を積むことで視野が広がり、アイデアの引き出しが増えるんです」。「ヴァンサンカン」編集部から異動になり、初めて編集長を務めた「エムシーシスター」時代。ここでは、雑誌のターゲットである女子中高生の世界を研究した。その2年後、「ヴァンサンカン」に編集長として就任した十河さん。「エムシーシスター」の読者が数年後に「ヴァンサンカン」の読者になったらどんな企画が面白いだろうか」といった新しい視点から、企画を考えられるようになった。

という。

また、「ぜひ編集長に」とオファーを受けて移籍した「ヴォーグ ニッポン」では、世界トップクラスのクリエイターたちと仕事をし、グローバルな視点や、審美眼を養った。「なぜいま、このファッションが注目されるのか」といった知識や、歴史的背景も知ることができましたね」と十河さん。

このように、さまざまな変化を受け入れ、自身を成長させていく一方で、十河さんがいつも忘れなかったのが「他者への感謝」だ。「新しい職場では自分の意見をぶつけることも大切ですが、まずは相手を尊重します」。

こういった「他者への感謝」があれば人脈も広がり、企画のヒントになる情報が自然と自分のもとに集まってくるのだという。「この10年で世界は様変わりしましたから、ずっと「ヴァンサンカン」にいたら、そのスピードについていけなかったかもしれませんね」と十河さんは話す。40代に入れば、良くも悪くも自身の編集スタイルが固まってくるもの。しかし、さまざまな媒体で編集長を経験してきた十河さんは、今日も斬新な発想で誌面を生み出している。

経験は編集者の財産！ いつまでも進化は続く。

雑誌文化の違いを痛感 『ヴォーグ ニッポン』 編集長時代

1999年、いつか編集長に挑戦したいと思っていた「ヴォーグ ニッポン」からオファーが、早すぎる就任に迷ったが、「こんな機会は永遠に来ないかもしれない」という言葉に打たれて転身。日本の雑誌は、完成されたひとつの文化だということに初めて目当たりした。スタッフクレジットの場所からデザインまで180度違う「ヴォーグ」を前に、日本のマーケットに合うよう、どう双方の文化を融合させていくかに腐心。



周囲を見渡す 余裕が生まれる 『MISS』編集長時代

ヴォーグ時代、個性の強いクリエイターに囲まれていたため、精神的に成長。周囲を広く見渡せる余裕が持てるように。前職の経験を生かし、2001年に移籍した「MISS」では、誌面デザイン全体を統括するADや、進行管理専門のスタッフを置くなど、海外の効率的なシステムを導入した。



時代に合わせ、常に新しい発想を 『ヴァンサンカン』編集長時代（第二期）

2006年、約10年ぶりに「ヴァンサンカン」に復帰。世の中は様変わりしたが、さまざまな雑誌を経験してきた十河さんのアイデアは尽きない。現在は定期購読者向けの新しい試みを実践中。